

福祉のしゃべり場 報告

第14回 2023年5月13日(土) 13:30~15:00

東京YWCA会館215室 参加者15名(内オンライン10名)

テーマ 「母の最期に伴走して」 「あなたが主役の福祉のしゃべり場」
「仕事をやめたくる時、退職の経験と退職しなかった経験から」

- ☆親の在宅療養の経験の話を引き「娘」「サービスを利用する立場」「仕事(支援者)」それぞれの立場で味わうこと、を改めて思いめぐらし、特養で働いている自分自身と親のこを受け止める機会になった
- ☆親や近親者の介護は「出来る環境」「できない環境」「家族の歴史」様々な条件が絡み合い、そこに流れる気持ちの存在を実感。親の介護ができることを羨ましいと思う、自分は冷たくなってしまおうと思う、素直な心も分かち合えてよかった。私たちがかわる方々にも色々な気持ちがあることを改めて思った。
- ☆仕事を辞めた経験「ずっと悩んだが同じ価値観を共有できる人がいなくなり腰痛になった事が決定打。チームケアの重要性を痛感している。 ☆紆余曲折を通り退職せずに留まり、子育てをしながらの仕事となり色々発見している。

講演会開催のお知らせ

愛患福祉支援財団の後援を受け、二つの講演会の開催が決定!

法人理念に通じる講演会の共通テーマ『住み慣れた場所で自分らしく「幸せに」暮らしていくために』

1) 講演のテーマ 「年齢を重ねても障害があっても生き生きとした生活を送るための支援」

2023年12月16日(土) 13:00~16:00 東京YWCA会館 217室

講師 奥田真美氏 東京YWCA専門学校卒業生。認知症を持つ利用者の支援地域ケアに長年取り組む。

「人生紙芝居」を活用したケアを展開。地域で安心して暮らすことができる仕組みを展開してきた。

2) 講演のテーマ 「最期まで私らしい1日1日」を共にするために

2024年3月16日(土) 14:00~16:00 東京YWCA会館 カフマンホール

講師 小澤竹俊氏 1994年より横浜聖生病院 内科・ホスピス勤務、96年ホスピス病棟長。

2006年めぐみ在宅クリニック院長として現在に至る。エンドオブ・ライフ協会代表。

会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000円/年 賛助会員 一口10,000円/年 団体会員 20,000円/年

◆株式会社 ゆうちょう銀行 記号10170 番号80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

ご寄付のお礼 皆様のご支援により支えられています。

2022年8月~2023年7月にご寄付いただいた皆様(敬称略・順不同)

笹尾正乃・岡澤和枝・徳森敬子・新田和子・蛸原まゆみ・西岡修・近藤真里子・匿名希望

感謝をもってご報告申し上げます。

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号東京YWCA会館216室

TEL 03-6273-7134 FAX 03-6273-7156(新番号になりました)

HP <http://ywca-hssc.org/> [東京YWCAヒューマン] で検索

2023年8月14日~18日 夏季休暇をいただきます。

編集後記：2023年度は是非お話をうかがいたい方々の講演会を新たに企画しました。
東京YWCA会館で幸せになるヒントを学びませんか。(Y.O)



特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します

26号

2023年7月

年次総会を終えて

特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター理事長 田島 誠一

6月27日、2023年度会員総会を開催しました。委任・書面表決者を合わせ41名の参加により、提出された議案が承認されました。

2022年度は、コロナの収束に伴い下半期から講師派遣研修が回復基調となりました。保育士等キャリアアップ研修は、受講者対象者の減少、研修事業者の増加、オンライン研修の増加などの中で苦戦しましたが、次年度につなぐ結果をあげられました。講師派遣事業は10法人に対して研修等を実施しました。この結果、収支はほぼプラスマイナスゼロで一年を終えることができました。

2023年度は、講師派遣事業の予算が、昨年度比マイナス100万円と厳しい状況です。昨年度研修にいたらなかった法人や、これまでつながりの少なかった法人に対しても、研修の可能性を模索していきます。保育士等キャリアアップ研修は、昨年度より1回増やし13回実施予定。対面の研修にこだわり、その良さをしっかり伝えていき、参加者の確保に注力します。予算は、総収益が2,258万円、収支差額6万円強のマイナス予算となりましたが、黒字に転換できるように努力を続けていきます。啓発事業である「しゃべり場」や広報活動はこれまで同様ですが、新たな取り組みとして、認知症や終末期ケアについての講演会を計画しています。

福祉・介護・保育の現場の多くでは、職員の確保と定着に頭を悩ませています。職員を集めることばかりに目を奪われがちですが、辞めていく職員の多さがより深刻な問題です。「辞めさせない」職場づくり、働く人が成長を実感できる職場環境や仲間との関わり合いが大切です。本会は、法人さんとの事前の話し合いを通じて研修計画を立案する「オーダーメイド研修」を基本としています。新年度も基本を大切に歩いていきたいと念じています。

2022年度 事業報告 (2022年4月1日から2023年3月31日)

I. 事業に関する事項

法人の掲げる理念・使命の実現に向けて高齢者、障害者、こども福祉分野を含めた事業実績を基に、法人・施設との関係性を重視し状況に即し、対応が取れるよう情報収集に力を入れ事業を展開していった。

1. 講師派遣研修 2022年も新型コロナウイルス感染症の影響が続き、高齢者施設をはじめ、障害者、保育園等クラスターの発生により業務への影響が大きく、厳しい状況が続いた。夏以降、政府のコロナ対応方針の変更が打ち出されたこともあり、9月以降高齢者施設の研修依頼が増え、感染予防を図りながら対面による研修が再開した。今年度の実績は以下のとおりである

	講師派遣施設名	研修内容
1	特別地方公共団体	通年 4月～3月 子ども支援事業心理巡回指導 3施設に月1回 2時間訪問指導
2	社福) 障害・高齢者福祉施設	通年 施設長研修 月1回 4時間 6月～2月、2023年3月新任施設長研修 6時間
3	社福) 子ども福祉施設	新人研修 6時間×2 フォローアップ3時間 マネジメント研修主任・副主任各4時間
4	社福) 高齢者福祉施設	通年 主任対象:SV研修2023年1月～12月 中堅研修 2年目 2023年1月～12月
5	社福) 複合福祉施設	通年 新人研修 月1回2時間 5月～2月
6	社会福祉協議会	通年 コンサルティング 月1回2時間 4月～3月
7	社福) 高齢者福祉施設	主任副主任研修 5時間 コミュニケーションとリーダーシップ
8	社福) 高齢者福祉施設	管理職研修:ストレスマネジメント3時間 中堅職員研修:マネジメントの基礎他 6時間
9	公財) 学童クラブ	全職員:コミュニケーション研修 2時間×2回
10	公財) 福祉支援財団	施設見学会コーディネーター 10月実施

2. 講座 講習 「東京都保育士等キャリアアップ研修」12回実施、今年度修了者131名 過去5年間の修了者数は1,756名 今年集客に苦戦した。その原因は、実施機関の増加、オンライン研修の拡大、未受講者数の減少等が考えられる。対応を進めることで徐々に改善し、11月以降の研修では受講者を確保し、予定通り研修を終えた。感染予防を図り実施した研修は、アンケートの回答から研修の満足度は高く、グループディスカッションにより学びが深まり、学習意欲の高まりを感じられる内容であった。

3. 福祉啓発事業 「福祉のしゃべり場」 2回実施 7月23日(土) 13:30～15:00 (通算12回) 参加者15名 (内オンライン10名) 11月12日(土) 13:30～15:00 (通算13回) 参加者7名 (内オンライン4名) 会報25号参照

4. 会員活動

親睦会 6月24日会員総会後開催。新旧の理事・監事との感謝と親睦。佐々木浩子先生を偲ぶ時間として過ごした。参加者 15名

5. 広報 1) 会報の発行 年2回 (7月・12月) 各200部 2) HPの活用 3) パンフレット 400部

II. 運営に関する事項

1. 会員総会 2022年 6月24日(金) 13:30～15:00 東京YWCA会館217室 **2. 理事会** 年4回実施

3. 会員 2023年3月31日現在 正会員 個人:70名 団体:2 賛助会員:8名

4. 事務局体制 理事長:田島 誠一 事務局長:常勤 事務:専任1名 非常勤1名

2023年度 事業計画 (2023年4月1日から2024年3月31日)

I. 事業に関する事項

1. 講師派遣事業

コロナウイルス感染症の影響により施設利用者の生活は、多くの場面において影響を受けた。失われた貴重な時間を取り戻し、QOLを改善、利用者支援を豊かなものとするために職員の力量が試されている。一方人材不足は深刻でケアの質の担保が難しい。我々の理念でもある、職員の専門性を高め、仕事に自信と喜びを持ち取り組むことができるように、人材育成への取り組みを進めることは、社会課題を解決するうえで不可欠なものとなっている。

- 1) コロナにより研修を進められなかった施設等に対して働きを強化していく。
- 2) 子ども支援心理巡回事業では、巡回指導受け入れ体制の仕組みを整え連携を強化して、心理巡回指導の効果を高めていく。

2. 講座 講習

- 1) 東京都保育士等キャリアアップ研修は、6年目となり、これまでの4分野に加えて新規2分野(乳児保育、幼児教育)に取り組む。年間13回実施予定。
- 2) 福祉支援財団の助成金を受け、当法人の理念にも通じる講演会を12月と3月に計画した。テーマは、『住み慣れた場所で自分らしく「幸せに」暮らしていくために』とした。詳細はHPに掲載。チラシ配布9月予定。

3. 福祉啓発事業 「福祉のしゃべり場」の開催 年3回開催予定 1回目5月6日(土) 参加者7名(内オンライン2名)

4. 会員活動 総会後に懇親会実施。

5. 広報 1) 会報の発行 年2回各200部 2) HPの活用 3) パンフレット 500部

II. 運営に関する事項

1. 会員総会 : 年1回 **2. 理事会** : 年3回 **3. 会員** : 会員の数値目標 正会員 個人75名

4. 事務局体制 : 理事長 田島誠一 事務局長:専任1名 事務:専任1名・非常勤1名

東京都保育士等キャリアアップ研修講師からのメッセージ

新しい講師の先生と新規開講の「乳幼児保育」「幼児教育」の先生から受講生の皆さまへのメッセージを紹介します。

	Q1 キャリアアップ研修への思い	Q2 受講生へのエール
 <p>「幼児教育」 山崎玲子先生</p>	<p>私は公立保育園に勤務した後、保育課に配属になり保育施設を巡回する仕事をしていました。施設によって子どもの遊びや保育環境が異なると感じ、子どもが主体的に遊べる環境を作る保育士の役割の重要性を再認識しました。</p> <p>オンライン研修が増えていますが対面研修だからこそ出来るグループ討議等を取り入れ、実りある研修にしたいと思います。</p>	<p>都市部での待機児童問題はだいぶ解決され、これからは保育の質が問われる時代になってきています。昨年「不適切な保育」についての報道があり、保育園・こども園・幼稚園で適切な保育が行われているか問われるようになりました。</p> <p>『子どもの最善の利益』『保育の質』について研修で一緒に話し合ひましょう。</p>
 <p>「乳児保育」 西久保久子先生</p>	<p>ミレニアム以降、様々な国際機関から0～2歳児の子どもへのケアと発達の保障の重要性について提唱されています。ヒト脳を育てる営みでもある乳児保育。</p> <p>本研修では、発達科学的な視点から乳児保育について捉え直していきます。</p>	<p>日々、みなさんが取り組んでいらっしゃる子どもとの関わり、環境構成、保育内容の組み立て、それぞれに『子どもの育ちを保障する根拠』があります。</p> <p>自分自身の持つ専門性を再確認しつつ、プラスアルファで理論を獲得できる場としていただけたらと願っております。</p>
 <p>「食育・アレルギー」 山崎真知子先生</p>	<p>保育園や児童発達支援センターで働いてきました。食べることは生きること。毎日三回食事の時間はやってきます。しかし「食育」と聞くと行事食やイベントと、特別なものをイメージする方が多いと思います。毎日の生活の中で、ひとり一人の子どもの食事をどう評価するのか、簡潔にわかりやすくお伝えしたいと思います。</p>	<p>毎日を忙しく過ごしている受講生の皆さん、皆さんの貴重なお時間を頂きありがとうございます。私が担当するのは、研修の一番最後のコマです。</p> <p>キャリアアップしたいと申し込んで頂いた皆さんの期待を裏切らないよう、明日からの保育に活かせるお話をしたいと思いますので、お互い集中して頑張りましょう。</p>